

PROGRAM <上映プログラム>

* 下記 No. は、作品上映の順番です。 * 上映作品は、都合によりプログラムを変更することがございます。予めご了承ください。

12:30~

(上映時間は都合により前後する場合がございます)



1. NonFiction of Fiction

岡部卓斗 (日本) 13分35秒
・埼玉県立芸術総合高等学校・映像芸術科

自分のチャンネルを持ち、動画を投稿できる「YouTube」。作者自身も自作の動画を投稿する「YouTuber」だ。今や既存メディアをも凌駕する存在となり、個人からビジネスまで多大な影響力を持つソーシャルメディア。その中で新しい居場所を見つける若者がいる。NET 社会の一面が分かる作品。



2. 権限 / La autoridad

ハビ・サラ (スペイン) 10分

車で旅する一家が、突然、警官に呼び止められる。モロッコからスペインに帰る途中、所定の検査と言われて急入りに荷物を調べられた後、異常なしと言って警官たちは去って行った。しかし無作法な権力の介入によって旅の雰囲気は一転、さらにその先に意外な事件が一家を待ち受けていた……。人の運命を左右できるような力を持ったとき、人はどのような行動を取るのかを考えさせられる。



3. Still Life

土屋貴聖 (日本) 20分
・日本大学芸術学部映画学科

5年前に妻を亡くして以来、路上生活をしている男性を追ったドキュメンタリー。病身の妻との旅行のために購入したキャンピングカーで、彼はひとり生活を送っている。1年半を過ごした埼玉県土呂から群馬県赤城山への移動に作者は同行する。土地や家を所有せずに生きる男性の「静かな生活」とは。



4. 我々の世界 / Mundo Nuestro

ホセ・ファン・カラスコ (スペイン) 2分30秒

とある日、幼い少女の家で次々と起きる様々な出来事。その1つ1つは些細なことだが、それは瞬く間に世界と映像で繋がり、破局を迎える。崩壊という壮大なテーマを、少女の身の周りの不協和音に置き換え、セリフを省き映像モンタージュのみで表現している。
*(10周年記念再上映)



5. ほころび / Don't Let It All Unravel

サラ・コックス (イギリス) 1分30秒

毛糸でできた地球、氷河、海、森の木々。あらゆる命が息づく地球を、人間が自らの手で壊していることが直感的に伝わってくる作品。毛糸を使い環境破壊という大きなテーマを僅か1分半で表現する手法はアニメーションならではの。
*(10周年記念再上映)



6. CUBE

田中祥利 (日本) 16分29秒
・埼玉県立芸術総合高等学校・映像芸術科

教室に居場所はなく、立方体パズルに没頭することで自分の世界を保っている少年・武志。同級生からの理不尽ないじめと暴力にあり、逃げ込んだ用具室で、同じく不良に追いかけられ飛び込んだ見知らぬ少年と遭遇。不良が去ったのを確認し、部屋を出ようとしたがなぜかドアは開かず、閉じ込められてしまう。



7. Here, There

谷 一郎 (日本) 4分46秒

“3.11”以降の“ここ”と“そこ”のお話。一人の女性が双眼鏡で遠くから東京を眺めると、そこには少女がかねてから不安にいられていたある幻想が現れる。原発作業員の男達は毎日バスに乗って現場に向かう。バスのエンジン音にギター音が重なって……。



8. 津波が残した記憶 ~震災遺構と向き合う町~

北星学園大学ジャーナリズム研究会 (日本) 19分40秒
地域の合意形成の難しさを証明したリポート。舞台は宮城県南三陸町。大震災で想定を遥かに超えた津波が町を襲った。町一の高さがある「防災庁舎」の屋上避難所で大勢の職員が亡くなった。4年が過ぎ遺構の保存をめぐる賛否両論。行政はダイレクトな話し合いを避け、町民からパブリックコメントを回収して存続を決めたが、わだかまりは消えてはいない。



9. あなたを心配する手紙

丹下紘希 (日本) 6分45秒

東日本大震災に伴う原発事故を経験した日本が、トルコに対し原発を売った……。その事実を日本人として恥ずかしく思うと同時に、トルコの人々、まだ見ぬ未来の人々を想い、ただひたすらに心配する。自分の想いを自分の言葉で伝えることの覚悟と勇気、気持ちがまっすぐに伝わってくるビデオレター。

14:30~

(上映時間は都合により前後する場合がございます)



10. 銃を置いた兵士たち ~消えていく沖縄戦秘話~

北星学園大学 阪井研究室・映像制作チーム (日本) 16分50秒

沖縄戦では20万人が死亡。沖縄県慶良間諸島にある阿嘉島では戦いの中で、米軍から、無血降伏の呼びかけが行われ、日本軍が応じ、和平交渉会談が密に行われた史実があったことをレポートする。その中で、長時間に会談が延び、両軍同意で併せて100名の兵士たちが海岸で昼食をとったというエピソードを取り上げている。



11. 20万の亡霊

ジャン・ガブリエル・ベリオ (フランス) 4分

1915年に広島県物産陳列館として開館し、被爆によって廃墟となった原爆ドーム。その90年の歩みを、述べ100人以上の被爆者から集めた証言と1000枚の写真で綴った作品。原爆投下前から現在までの広島時間を詩的に遡る。
*(10周年記念再上映)



12. 我は死神なり / We are become death

ジャン・ガブリエル・ベリオ (フランス) 4分

「原爆の父」として知られる、ロバート・オッペンハイマーの功績と苦悩を映像詩で検証する。人類最初の核実験「トリニティ実験」。その威力を目の当たりにしたオッペンハイマーが語った言葉には、科学者として、また一人の人間としての深い後悔が滲み出ている。



13. 戦争のつくりかた / What Happens Before War?

丹下紘希・プロデュース (日本) 7分38秒

2004年、この国が戦争へと近づいていくのではないかと気づいた人々によって制作された絵本「戦争のつくりかた」。終戦70周年を迎えた2015年、「新たに戦争の悲しみと不条理を繰り返してはならない」と考えた映像作家やアーティストたちの集団「NoddIN (ノディン)」が中心となり、数多くのアニメーション作家と共に短編映画に思いを込めた作品。



14. 井戸 / Le Puits

ジェローム・ブルベス (フランス) 8分20秒

小さな生きものが、深く暗い井戸の底から光に向かって飛び立とうと大きな泡にしがみつくと。泡に乗って上昇する途中、恐ろしい空間を通り過ぎていく。絶望、享楽、傲慢……その先にあるものは？ 人生を全うする道すがらの出会いを、哲学的に見事に映像化。宗教的とも思える架空の心象風景は、見る人によって様々な自分を見つめるきっかけを与える。



15. 明治の気骨

石川 勝 (日本) 19分56秒

板橋明治さんは、生涯を通じて農民運動家として、日本の公害に対する運動の原点を確立された人だ。栃木県足尾銅山の鉱毒によって渡良瀬川流域で発生した農業被害の救済運動の先頭に立って、鉱毒根絶をめざし活動した。作者は明治さんの人柄に惚れ、密着する。彼の気骨は「戦わなければ駄目なんだよ」この姿勢に圧倒される。



16. ジュウおじいちゃんへ捧ぐ / Dedicated to Grandpa Dieu

グエン・ヒエン・アイン (ベトナム) 23分

ハノイ市内の騒がしい路地の小さな一角、質素な家で素朴な生活を営む祖父ジウの日常生活を描く。ジウは1960年代半ばに国連難民高等弁務官事務所でのフリーランスの通訳者として働いていた野村家であり、懸命に好きな本を翻訳してきたが、その本を出版しようとしたことは一度もなかった。